

## 【5】 都城地区小学校体育連盟 研究のあゆみ

### I 年間事業について

期 日	曜	会 名 等	主 な 内 容	会 場
5月15日	月	教科主任会	役員改選、研究推進、教職員ミニバレーボール大会検討	明道小学校
5月23日	火	第1回常任理事会	研究推進、教職員ミニバレーボール大会検討、水泳教室計画	早水公園体育文化センター
5月30日	火	第1回理事会	研究推進、水泳教室計画、指導案検討	早水公園体育文化センター
6月 3日	土	教職員ミニバレーボール大会		早水公園体育文化センター
6月 6日	火	第2回常任理事会	指導案検討、水泳教室計画、陸上運動教室計画	早水公園体育文化センター
7月24日	月	第66回都城市水泳教室	前日準備	各 会 場
		三股町小学校水泳記録会	前日準備	三股西小学校
7月25日	火	第66回都城市水泳教室		各 会 場
		三股町小学校水泳記録会		三股西小学校
8月 8日	火	第2回理事会	実技講習、水泳教室反省、研究推進、指導案検討、陸上運動教室計画	明道小学校
8月23日	水	第3回常任理事会	指導案検討、陸上運動教室計画	沖水小学校
10月12日	木	三股町小学校陸上記録会	前日準備	三股小学校
10月13日	金	三股町小学校陸上記録会		三股小学校
10月17日	火	第3回理事会	指導案検討、陸上運動教室名簿・諸準備確認	早水公園体育文化センター
10月23日	月	第68回都城市小学校陸上運動教室	前日準備	都城運動公園陸上競技場
10月24日	火	第68回都城市小学校陸上運動教室		都城運動公園陸上競技場
11月14日	火	第4回理事会	指導案検討	早水公園体育文化センター
11月21日	火	体育専科授業公開		沖水小学校 授業者 教諭 山本 亮
11月29日	水	都城市・三股町地区合同教育研究会	授業研究会 (研究授業・授業研究会)	菓子野小学校 授業者 教諭 川原 竜馬
1月19日	金	小中高合同体育研究会		三股中学校
2月20日	火	第4回常任理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター
3月 6日	火	第5回理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳教室

- (1) 大会名 第66回都城市小学校水泳教室／三股町小学校水泳記録会
- (2) 実施日 7月25日
- (3) 会 場 都城市内10会場／三股西小学校
- (4) 出場者 小学5・6年生
- (5) 実施種目 25m(自由形・平泳ぎ) 50m(自由形・平泳ぎ)、100mリレー

#### 2 陸上教室

- (1) 大会名 第68回都城市小学校陸上運動教室／三股町小学校陸上記録会
- (2) 実施日 10月24日(都城市)／10月13日(三股町)
- (3) 会 場 都城運動公園陸上競技場／三股小学校
- (4) 出場者 小学6年生
- (5) 実施種目 100m走 200m走 50mH 持久走(男子1000m 女子800m)  
走り高跳び 走り幅跳び ソフトボール投げ 400mリレー

※ 水泳教室及び陸上運動教室ともに、都城地区小学校体育連盟による競技規則を適用する。  
 ※ 参加児童の親睦を図るために、陸上運動教室において、ジェンカを実施した。また、教室という趣旨に基づき、水泳教室では模範泳を、陸上運動教室では模範競技をそれぞれ取り入

れた。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題及び副題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方  
～器械運動の学習を中心に～

#### 2 主題設定の理由

学習指導要領では、体育科の究極の目標である「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを目指し、小学校においては、「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」ことや「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」こと、中でも「運動に親しむ資質や能力の育成」と「健康の保持増進」、「体力の向上」の三つの目標が密接に関連していることが示されている。

特に「運動に親しむ資質や能力」については、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり、工夫したりする能力、運動の技能などを指して、これらの基礎を確実に育成することが重要となる。これらの資質や能力を育成するためには、児童の能力・適性・興味・関心などに応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習が重要である。

都城地区の教員を対象にアンケートを行ったところ、その多くが「器械運動」の指導について難しさを感じていることが分かった。そこで、4年にわたり「進んで学習に取り組み、楽しさを味わう体育科学習の在り方」について、器械運動の学習を中心に研究を進めてきた。

2年間研究を行った「マット運動」では、単元構成の中に集団での演技を取り入れることで、仲間と関わりながら、技や演技などの課題に向けて互いに学び合う姿をみることができた。また、技能面に関する研修を進めることで、児童に一つ一つの技ができるようになるための取り組み方を示すことができた。昨年度からは、これまでの「マット運動」の研究を踏襲しながら、「跳び箱運動」についても研究を進めた。指導者側が、「跳び箱運動」の技の系統やポイントを把握し、指導に役立てることができるような跳び箱運動の運動事例集の作成を行った。そして、それを各学校に配付し、活用を図っていく中で、技の前後や各項目との関連性を明らかにすることができた。

本年度は、単元構成を見直し、昨年度作成した指導者向けの運動事例集を参考にしながら、児童向けの運動事例集（技のポイントチェックシート）の作成を行う。技ができるようになるための感覚づくりの運動や、関連する技を明記することで、体育の授業において児童自身が技の構造を理解したり、練習の場を選定したりしやすくなり、主体的に技の習得に向けての練習に取り組むことができるようになることを考える。そして、グループでの練習の際に、児童同士で技の確認を行うための資料としても活用を図りたい。

また、小体連便りを発行し、体育科学習だけでなく、昼休み等にも取り組めるような運動を紹介し取組の啓発を行うことで、運動の日常化につなげたい。

以上のことから、これまでの研究を生かして、児童が仲間と関わりながら主体的に学習を進め、技のポイントを理解しながら運動の楽しさを味わうことができるようにしていきたいと考え、本主題を設定した。

#### 3 研究仮説

器械運動の学習を通して、仲間と関わり合いながら、技の高まりを実感できるような学習過程を工夫し、個々の課題に応じた解決の場を設定すれば、児童は運動に進んで取り組み、楽しさを味わうことができるであろう。

#### 4 研究の内容

##### (1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方

- 器械運動の指導方法について
- 単元計画の工夫
- 1単位時間の指導の在り方

##### (2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

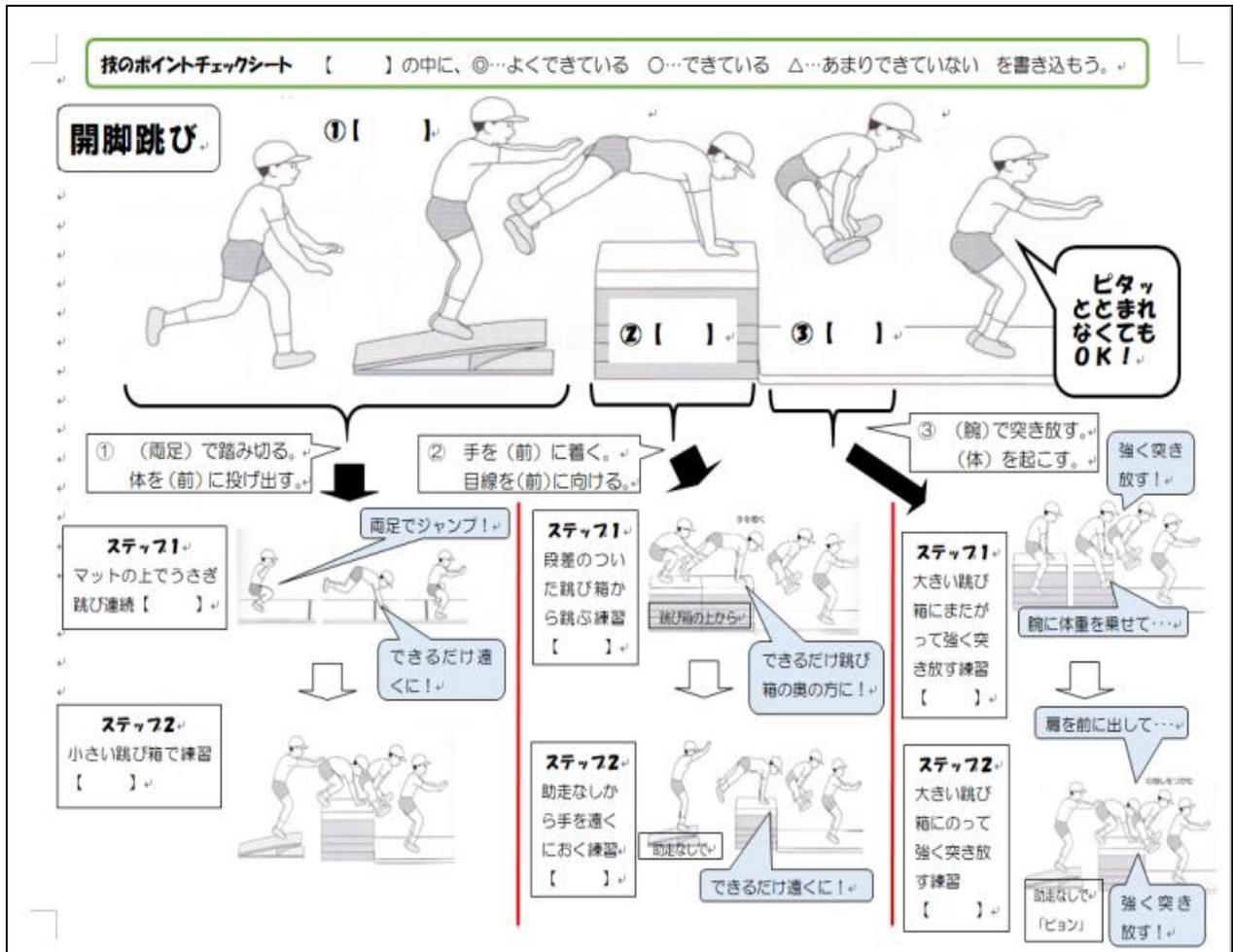
○ 小体連だより「なかま」の作成・発行

5 研究の実際

(1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方

① 器械運動の指導方法について

児童に身に付けさせたい技能について整理し、授業に入る前に実態を把握することで、その後の授業の手立てがとりやすくなると考えた。そこで、昨年度都城地区の小体連が作成した指導者向けの運動事例集を参考にし、児童向けの技のポイントチェックシートを作成し地区内の小学校に配付した。分析表には、助走～踏み切り→着手→着地と技を細かく区切り、児童が技を選んだり、場を選んだりすることができるように、ポイントを示している。



【図1：技のチェックシート】

ア 技の評価について

学習指導要領の指導内容を確認し、示すようにした。

イ 技の系統について

児童が、自分の能力にあった技に取り組めるように、それぞれの技を切り返し系や回転系に分けて、系統を示した。教材分析をもとに説明を加えていった。

② 単元計画の工夫

児童が仲間とかかわりながら技に取り組むことで楽しさを感じたり、技ができるようになる喜びを味わったりできるような単元計画の作成を行った。

段階に応じて単元計画を作成し、技の系統表を作って内容を確認した。学習内容の目標をとらえ、それに必要な場を設定し、場の工夫をした。準備、片付けも含めて授業とし、少ない時間でできるように工夫することで運動量を確保するようにした。

オリエンテーション	ステージ1	ステージ2	発表会
準備運動・学習課題の確認・わくわく体育6つのOK			
学習の進め方	1 学習の流れを知る。		技の発表会
準備運動の仕方	2 準備運動を行う。 (肩・手足・腰・膝・足首をほぐす)		
感覚作りの運動	3 感覚づくりの運動を行う。 ○ 動物歩き、平均台跳びなどコーナーを設けサーキット運動を行う。 ○ 場の設定の例		
場の準備	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">・馬跳び</li> <li style="margin-right: 10px;">・うさぎ跳び</li> <li style="margin-right: 10px;">・舞台からの跳び下り運動</li> <li style="margin-right: 10px;">・平均台</li> <li style="margin-right: 10px;">・動物歩き</li> <li>・舞台への跳び乗り運動</li> </ul> </div>		
課題設定 (個人技能の確認)	4 基本的な技に取り組む ○ 切り返し系の技に取り組む ・ 開脚跳び ・ 安定した開脚跳び	4 課題別学習に取り組む ○ 開脚跳び ○ 安定した開脚跳び ○ 大きな開脚跳び ○ かかえ込み跳び ○ 台上前転 ○ 安定した台上前転 ○ 大きな台上前転	
グループ編制			
整理運動・振り返り・次時の学習内容の確認			

【図2：単元計画（高学年部の例）】

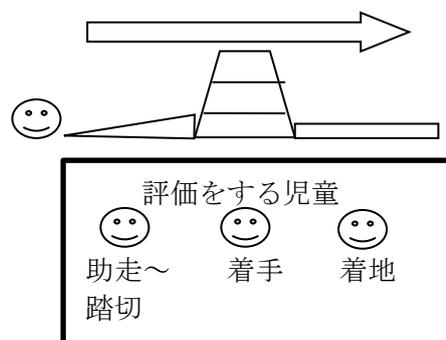
③ 1単位時間の指導の在り方

効率よく技の完成度を高めるために、初めて取り組む技や確認については一斉指導で行う。

個人練習では、児童向けの運動事例集を参考にしながら、自分の課題に合った練習の場を選択し、関連した技の練習や感覚づくりの運動を行う。

その後のグループの学習では、グループの中で技のチェックを行いながら練習する。その際、技のポイントチェックシートに書かれているチェック項目を活用することで、視点を明確にし、的確なアドバイスを送ることができるようにした。

また、チェック場所を、「助走～踏切」「着手」「着地」に分け、それぞれ一人ずつチェックすることで、アドバイスをしやすくした。



【図3：評価の流れ】

(2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

- 小体連だより「なかま」の作成・発行

水泳教室・陸上運動教室の結果報告や、昼休みや放課後、家庭でも取り組めるような運動を紹介した。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

技のチェックシートを作成したことで、主体的な練習を行うことができた上、仲間との関わりも積極的にもつことができ、技の完成度が高まった。

(2) 課題

技の構造的特性や機能的な特性について研究を進め、都城地区で使いやすい運動事例集の作成を行う必要がある。